



子どもたちの「スポーツ大好き」の芽を育てたい

「小学校低学年からスポーツに触れる機会を作れたかった」と話すのは田鶴浜スポーツクラブ事務局長の長田次夫さん。田鶴浜スポーツクラブでは、平成29年度に町の先生に登録している指導者の協力を得て、児童にスポーツの楽しさを知ってもらおうと「スポーツ体験のびのびクラブ」を創設。今年度は放課後児童クラブに通う1～5年生45人がバドミントンや卓球、陸上など5競技のスポーツを体験している。長田さんは「のびのびクラブで



は礼儀の大切さや感謝の気持ちを持つことから教えています。児童は、練習を重ね上手にできるようになると自信が付き、姿勢が変わってきます。目に見えて児童が変わります」とスポーツの重要性を説く。

「児童の楽しそうな様子に、指導者の町の先生もやりがいや生きがいを感じているようです」と相乗効果が生まれていると話す長田さん。町の先生とスポーツクラブの協働が、児童の笑顔の輪を広げスポーツを楽しむ心を育んでいる。



長田 次夫さん



Interview

◆永井 陸斗さん(3年生)  
友達といっぱい体を動かせるのが楽しいです。先生は怖い時もあるけれど、おもしろいから好き。競技をしている姿はカッコよくて、すごいなと思います。

◆寺井 美鈴さん(3年生)  
学年が違ってもスポーツを通して仲良くなれるし、先生もおもしろくて楽しいです。  
陸上を習って、前より走りが速くなったかなと思います。

◆和田 圭史さん(2年生)  
ゲートボールは的に当てるのが難しかったけれど、うまくなるよう練習します。  
バドミントンは先生とのラリーが64回も続いて楽しかったです。

いし、のびのびクラブが卓球に触れるきっかけになればいいと思っています」と町の先生の一見も見せた。  
2人の活躍はほかの町の先生の刺激にもなり、センター長の井上さんは「自分たちの仲間が全国大会に出場したことは喜ばしいこと。卓球を教わった子どもたちもきつと喜んでいて。これからさまざまな分野で、町の先生が活躍することを楽しみにしています」と今後の活動に期待を寄せる。  
地域の未来を明るくしようと立ち上がり、自ら目標を追い、輝き続ける町の先生。この「人財」が未来を担う「人財」を創り、ふるさとを大切に思う心を受け継いでいく。



町の先生が全国大会出場!

町の先生に登録し活動している上島藤男さんと永井和美さん。2人は11月4、5日に富山県魚津市で行われた第31回全国健康福祉祭とやま大会(ねんりんピック富山2018)の卓球競技に県代表として出場した。永井さんは「ねんりんピック

は初めての出場でしたが、県外の選手と対戦できて楽しかったです。練習を重ねてさまざまな大会に出場したいですね」と意欲を見せ、上島さんは「卓球はいくつになってもできるし気軽に始めることができます。ねんりんピックでは、善戦できたかなと思います」と初出場した感想を述べ、「子どもたちにはスポーツに親しむ楽しさを知ってほし

